

○議 事 日 程

令和7年10月7日（火）午前10時00分開会

令和7年度第2回守口市まち・ひと・しごと創生委員会

○出 席 委 員 （11名）

委員長	眞 鍋	昇	委員
	山 口 行	一	委員
	花 木 完	爾	委員
	喜 納 厚	介	委員
	乾	浩 一	委員
	北 川 恵	一 郎	委員
	高 田 友	成	委員
	小 西 雅	晴	委員
	渡 部 恭	子	委員
	廣 野	愛	委員
	玉 野 裕	子	委員

○欠 席 委 員 （4名）

宮 前	能	委員
吉 川 江	里	委員
平 野 哉	枝	委員
軸 原	修	委員

○事務局

企 画 課 長	内 橋 真 吾
企 画 課 長 代 理	佐 藤 利 秀
企 画 課 主 任	山 本 晋 士
企 画 課 主 査	阪 口 智 彦
魅 力 創 造 発 信 課 長	藤 井 佐 知 子
魅 力 創 造 発 信 課 長 代 理	西 尾 直 樹

~~~~~

◇ 午前10時00分 開会

○委員長 おはようございます。定刻となりましたので、第2回守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開催させていただきます。

皆様にも、非常にお忙しい中でお時間をいただいております。お集まりいただきありがとうございます。

まず、議事に入ります前に、皆様にお願いがございます。この議事録を作成するために録音させていただいておりますけれども、御了承いただけますでしょうか。

(了承の声)

ありがとうございます。では、事務局から本日の出席委員数について、御報告をお願いいたします。

○事務局 本日の出席委員は、定数15名中11名が御出席でございます。

○委員長 ただいま事務局から報告がありましたとおり、守口市まち・ひと・しごと創生委員会条例第5条第2項の規定に基づいて、定足数に達しておりますので、会議は成立いたします。

では、事務局から本日の資料等について、説明をお願いします。

○事務局 本日の資料に関して、御説明いたします。

委員会全体の資料については、事前に各委員にメールにて一式を送付させていただいております。

本日の会議資料につきましては、お手元のパソコンに同じものを御用意しております。資料については、次第、資料1、そして参考資料1、参考資料2となります。なお、資料ごとの説明は割愛いたしますので、恐れ入りますが、お手元のパソコンにより御確認いただきますようお願いいたします。操作など御不明な点がございましたら、事務局までお声がけください。

○委員長 よろしいでしょうか。

それでは、早速ですが、議題に入らせていただきます。

本日は議題が1つでございまして、「第3期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について」ということで、事務局から説明をお願いします。

○事務局　それでは、「(1) 第3期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について」、御説明いたします。

恐れ入りますが、資料1を御参照ください。次期戦略の策定にあたり、ポイントとなるデータや現計画からの変更点については文章中に赤字で記載しており、その部分を中心に御説明させていただきます。

また、前回会議にて「第3期戦略の策定の方向性」といたしまして、第2期戦略の基本目標がいずれも達成できていない状況を踏まえ、現時点においても、第2期戦略の策定時とおおむね同様の課題があると認識していることから、現戦略と同様の取組体系で第3期戦略のたたき台を作成したところでございます。

それでは、まず1ページを御覧ください。

「本戦略の位置づけ」は、現在の第2期戦略と同様、少子高齢化の進展に対応し、人口減少に歯止めをかけること等を掲げ、第6次守口市総合基本計画後期基本計画の個別計画の一つとして位置づけるもので、「計画期間」が令和8年4月から令和13年3月までの5年間となっております。

次に、3ページ「本市の現状と課題」を御覧ください。「①人口・世帯数の推移【総人口・世帯数】」を御覧ください。

本市の人口は、令和6年にはピーク時から約4.6万人減少して14.1万人となっております。また、世帯数は増加を続ける一方で、1世帯当たり人員は、令和6年には1.90人となっており、高齢者単身世帯の増加が見られるところでございます。

次に、5ページを御覧ください。

上段は【出生と死亡】についてのグラフで、平成17年以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」が続いており、令和5年は1,000人を上回っております。出生数は1,000人前後で推移しているところでございます。

下段は【結婚の状況】についてのグラフで、男性の未婚率は全ての年代で低下傾向、女性の未婚率は45歳から49歳以外の年代で低下傾向が見られ、令和2年には大阪府と同程度となっております。

次に、6ページを御覧ください。

こちらは、若者アンケートの結果で【若者の結婚に対する考え】としては、結婚を希望する人が7割となっております。5年前の調査と比較すると、結婚を希望する割合に大きな変化は見られないものの、「結婚の条件がそろるか理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない」の割合が増加しています。

次のページにまいりまして、「結婚するための条件について」は、「良い人と巡り合える」が最も多く、次いで「収入など結婚生活のための経済的基盤ができる」と経済的な条件が「良い人に巡り合える」に迫る条件となっております。5年前と比較すると「自分または相手の仕事が安定する」が33%から20%に減少する一方で、「収入などの結婚生活のための経済的基盤ができる」が11%から52%に増加しております。

続きまして、9ページを御覧ください。

若者アンケート結果の【子育て観について】でございますが、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も多くなっている一方で、「経済的な負担が増える」「自分の自由な時間が制約される」「身体的・精神的な負担が増える」といったマイナスイメージも増加しています。

次に、10ページを御覧ください。

「③人口の社会増減に関する現状【転出・転入の状況】」についてでございますが、平成28年以前は転出数が転入数を上回っていましたが、平成28年以降は令和3年を除き、転入数が転出数を上回っております。

次に、13ページに移らせていただきます。

上段のグラフは「各年の年齢別人口（0から6歳）の推移」で、令和2年以降の0から6歳の人口推移を見ると、2、3、5、6歳は増加しており、それ以外の歳は減少しております。

下段のグラフは、「令和7年4月の各年齢人口の過去の人口推移」で、年齢別に過去の人口を折れ線グラフにすると、4歳、6歳から10歳は転出超過、それ以外は転入超過が起こっております。

次に、14ページを御覧ください。

上段の図では、「2020年から2024年の0から9歳の地域別転出入差」についてまとめており、令和2年から令和6年の0から9歳の転出入差を見ると、大阪市域からは4歳児を除いて9歳まで転入超過ですが、それ以外の地域では、1歳以降は転出超過になる地域が多く見られます。特に北河内地域への転出超過が大きくなっています。

また、下段の図「ゼロから9歳の転入・転居の年齢別状況」からは、移動の履歴として、守口市で生まれた子どもが5年間で多く転出していることが分かります。

一例ですが、ベン図で記載している一番右では、2歳以下の移動総件数のうち、赤丸の中、転入は5年間で1,528人いましたが、そのうち5年以内に転出した件数は、赤い弁図と青い弁図の重なる部分、398人いたということが分かります。つまり、転入してきたのに5年以内に3割弱は転出していったという状況でございます。

なお、当該データの詳細につきましては、参考資料「子どもの転出入状況の分析」として添付しております。説明については、時間の都合上、割愛させていただきます。

次に、15ページを御覧ください。

魅力に関するアンケートの【転出入における市民の意向】についてでございますが、「守口市内も検討したが最終的には市外になった」「守口市内に住むこともできたが、守口市内では探さなかった」を合わせると、転出者の34%が守口市に住み続けることもできたが、守口市を選ばなかったということになります。

この34%の層にいかに関守口市を選んで住み続けていただくか、施策等の検討が重要と考えております。

次に、17ページを御覧ください。

市民アンケートの【守口市での定住意向】については、7割弱が守口市内に住み続けたいとしており、今住んでいる地域の住みやすさについて8割以上が住みよいと答えています。

次に18ページを御覧ください。

市民アンケートの【守口市への愛着・誇り】については、7割弱が愛着を感じています。また、3割強が誇りを感じており、「どちらでもない」が5割弱を占めています。また、愛着があり住み続けたいと思っている市民の9割は、市に対して良いイメージを持っており、高い評価となっております。

次に、21ページを御覧ください。

こちらでは、現・計画である「第2期戦略の成果」について記載しており、第2期戦略の数値目標の達成状況といたしましては、下段の表にまとめているとおり、4つの目標は全て未達成となっております。

次に、22ページの「第3期戦略の主要課題」を御覧ください。

ここでは、これまで説明してきました各種データから伺える課題を図に整理しております。

整理した課題への対応策として、自然動態の観点では、市民が理想とする数の子どもを持つことを実現すること、社会動態の観点では、若い世代の転入を促進し、子育てファミリー世帯の転出を抑制すること、そして、長期的観点からは、『守口市に住み続けたい』と思えるまちとのつながりを増やし、家庭を持ったときに守口市で子育てをする人を増やすことをそれぞれ目指し、これら3つの観点から「人口減少の抑制」につなげていきたいと考えております。

次に、23ページの「本市における地方創生の考え方と目標」を御覧ください。

「（1）地方創生の考え方」では、【守口創生の基本理念】として、前計画と同じ「子どもといきいき暮らせるまち、子どもにとって良き思い出

があふれるまち」を掲げております。

枠内には、基本理念に向けてのイメージ図を記載しており、第1期戦略では、若年者のニーズが高かった「安心感」・「快適性」を高める取組を進めてきたことにより、守口の新たな「まちの魅力」として具体化し、0歳児の転入超過を実現しておりますが、依然として子育てファミリー世帯の定着には課題がございます。

そこで、第1期・第2期戦略を通じて培ってきた様々な「まちの魅力」を取り入れた「子どもとの楽しいもりぐちライフ」を実感し、また、仲間との絆を深めることによって、守口との様々なつながりを深め、子育てファミリー世帯の定着率を高めることを目指し、たとえ進学・就職等で守口を離れることがあったとしても、その回帰を含め若い世代が「良き思い出にあふれるまち・守口」に定住することを目指します。

次に、24ページの「（2）人口目標」を御覧ください。

人口目標として、守口創生に取り組むことにより、直近の人口動態の傾向を維持することで、令和12年における人口を13.6万人とすることを目指します。

次に、25ページの「（3）基本目標」を御覧ください。

こちらでは、4つの基本目標を記載しております。現・戦略からの変更部分は、基本目標2となっております。

まず、「基本目標1 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」では、数値目標として2030年に1.71としております。

次に、「基本目標2 守口のさらなる『まちの魅力』を創造し、広く発信する」では、現・戦略からの変更点といたしまして、「若い世代に守口の『まちの魅力』を広く伝える」から変更しております。

これは、今ある守口の魅力を広く伝えるだけではなく、魅力を創造し、広く発信する必要があるため、この表現としております。

数値目標につきましては、現・戦略と同様となっております。

次に、「基本目標3 子育てファミリー世帯の守口定住を促す」の数値

目標についてでございますが、現計画では、「引っ越した5歳児のうち」としておりましたが、現状は、1歳以降の転出が超過していることから、「引っ越した0から9歳のうち」に変更しております。

次に、「基本目標4 良いイメージをもって守口を誇りに思う子どもを増やし、育てる」では、数値目標として「将来守口に住みたい」と思う若年者の割合を50%としております。

次に、26ページの「取組の体系」を御覧ください。

現・計画からの変更点といたしましては、先ほども説明いたしました「基本目標2 守口のさらなる『まちの魅力』を創造し、広く発信する」に紐づく取組の書きぶりを記載のとおり変更しております。

また、「基本目標3 子育てファミリー世帯の守口定住を促す」の取組の基本的方向③においては、新たな観点として「地域とのつながりを支援する」を追記しております。

それ以外の部分については、現・計画から変更なしとなっております。

次に、27ページの「(5) 第3期戦略の取組方針」を御覧ください。

こちらでは、第3期戦略での取組方針について記載しております。「取組方針1 若い世代の声やデータを本戦略の策定・推進において重視します。」から次のページに参りまして、「取組方針4 守口創生に向けた取組には、必要に応じて企業版ふるさと納税を活用します。」までは、現・計画から大きな変更はなしとなっております。

「取組方針5 デジタルの力を様々な課題解決に積極的に活用します。」は、今回新たな取組として追記したもので、行政サービスのオンライン申請手続の導入などを積極的に進めてきましたが、今後もICTやAI技術のさらなる活用によるデジタル化を推進するとともに、職員の意識変革も併せて行い、DXを推進する旨を記載しております。

次に、29ページを御覧ください。

ここからは「守口創生に向けた取組」として、先ほど出てきました4つの基本目標と、それぞれの「取組の基本的方向」について、「①本市の特

性と課題」「②本戦略の実行を通じて実現を目指す『守口の姿』」をそれぞれ記載しております。

次のページにまいりまして、「②本戦略の実行を通じて実現を目指す『守口の姿』」を御覧ください。

ここでは「基本目標 1 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」につなげるため、基本的な方向をフロー図でお示ししております。一番上の欄には、本戦略の取組において目指すべき本市の状況を示しております。

「基本目標 1」では、「若い世代が進学・就職・結婚・出産・子育て等のライフイベントをどのようにしたいかという将来の希望を描いております。」「理想とする数の子どもをもち、家族で協力して気持ちにゆとりをもって子育てをしています。」の2つの実現を目指す「守口の姿」として掲げ、その下には目指す「守口の姿」を達成するにあたり、具体的にどのような状況が必要かということを記載しております。

最後に、一番下には、その状況を達成するにあたっての必要な施策の方向性を記載しているところです。

このような構成の下、31ページ以降は基本目標 2 から 4 についても同様に図示させていただいております。

次期戦略の検討にあたりまして、前回会議では、現戦略が4つの目標のいずれも達成できていないことを踏まえ、大きな方向性については現戦略を踏襲するとの事務局の考えをお伝えしたところでございます。

本日は、ここまで御説明しましたとおり、若者へのアンケート結果や分析データを基に、これまでの達成状況等を振り返りつつ、考え得る課題を認識し、今後の基本理念や4つの目標設定について御意見をいただきたいと考えております。

特に22ページ「3、本市における地方創生の考え方と目標」以降の内容について、抜けている視点はないか、また、特にこれらの基本目標等を達成するにあたって市としての必要な取組などについて、皆様のそれぞれの

御立場から御意見を賜れればと考えております。

なお、今後につきましては、本日の御意見を参考とし、これらの基本目標を達成するにあたり、必要であると考えられる具体的な取組やK P Iの設定などについて、関係課と調整しつつ取りまとめていく予定としております。

説明は以上となります。

○委員長      どうもありがとうございます。

非常に分厚いというほどではありませんが、たくさん盛り込まれた資料を説明いただきました。一言、短くても結構ですので、お考えを教えてくださいましたらと思います。

○委員      守口市さんの今までの総合戦略ですけど、私も幾つかの市の委員に関わっていて思うことで申し上げますと、割と総花的に政策を挙げておられている市と、守口市さんのように、例えば子育て世代の転入というところに特化した総合戦略を立ててやっておられるところがあります。あまり総花的にやると、なかなか成果が現われにくいし、成果をつかみにくいと思うので、基本的には、私はこの特化したやり方というのはいいと感じているんですけれども、1期、2期、3期と総合戦略が続いていて、ある程度、私も1期の途中から入らせていただいたと思うんですけれども、2期から今度3期に入っている程度1期、2期の検証を踏まえて、例えば言い方は悪いんですけれども、我々は民間なのでどうしても費用対効果というのですか、かけるコスト、例えば守口市さんの場合は子育てのところ、保育のところはかなり手厚く0歳児から無償化ということでやっておられるので。かけるコストに対して見返りと言ったらおかしいんですけれども、税収の部分ですよね。多少、そういう部分で成果があったり、それを続けていこうと思われている根源というのを教えていただければと思います。

○事務局      ありがとうございます。企画課、内橋でございます。

今委員がおっしゃった部分の意見につきましては、ごもっともな部分がございます。我々もまちづくりをしていくためには、コストにも当然限り

がありますし、コストをかければ全ていい策だというわけではないという認識はしております。

その中でも、今回第3期戦略を策定するにあたりましては、委員がおっしゃったように、第1期戦略から第3期戦略にかけて進めていった部分が資料23ページの考え方の部分にも記載しておりますように、第1期「便利なまち」というところから、「安心・快適・便利に子育てできるまち」が加わり、さらにそこに子どもにフォーカスしたまちづくりという形で進めてまいりました。

今後も、第3期戦略をつくっていくにはその考え方をベースにしつつ、やっていくんですけれども、委員おっしゃったように、コスト面の部分については、当然その戦略を考えていく中で同時並行で考えていく必要はあると考えております。同じく、資料の2ページ目の部分を御覧いただいたいんですけれども、資料の2ページ目、取組の意義という記載が1ページございます。その部分は、まさに第3期戦略を策定する中では第2期戦略の部分から進んできている総合基本計画という大きな10年計画もありますので、当然効果検証というのは毎年していきながら実施していくという形で考えております。

一方で、行政経営プランを令和5年度に策定し、あくまでも限られた経営資源というのを最大限活用し、行政コストを抑えながらサービスをさらに向上させていくという大きな考え方に基づいて、今後もやっていくというところでございます。その辺りを意識した形で、今後のまちづくりを検討していく必要があるという認識です。

ただ、現状、コスト面的な部分でどういう課題があるのかというところまでは厳密には分析できてない状況でございますので、今後はその課題面を持ちながら、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

○事務局　　少しだけ補足させていただいていいですか。林と申します。よろしくをお願いします。

先ほど委員から御指摘がございましたとおり、子育て世帯が増えること

によって税収が本当に増えていますか、そういった分析ができていますかという御指摘があったと思います。

行政としましては、子育て世帯が増えることで、直接いきなり税収がどんと増えることってなかなか難しいというふうに考えています。というのは、先ほどまさに御指摘がありましたように、保育料の給付であったり、子どもたちが小学校、中学校にいきますと、今本市では学校施設をどんどん整備していつていますので、そういった面では実はコストはかかるというふうに考えています。

ただし、先ほど計画でも御説明させていただきましたように、その子どもたちが大きくなって収入ができて、またどこかにお勤めに行かれますが、最終的には帰っていただくということで長い目で見ますと、まちのにぎわいであったり、最終的には税収に返ってくるというふうな将来的な投資という意味で捉えまして、経営資源といいますか、市の資源を今本市では子育て世帯に対する施策に投下しているというような方針で進めています。

○委員     ありがとうございます。今おっしゃるように、確かにそのとおりだと思うんですよ。特に第1期のときは、割と各市が総合戦略を立てたときによそから若い世代を取り込む、どこが、要は取り込む施策を出すかというようなことがメインになっていたと思うんですけど。やっぱり取ったら取られたところが減ると、そこはそこでまた課題が出てきて、日本全体でいくとやはり人口減少というのはどうしようもないことなので、そこを少しでも改善できるような施策を考えていきたいと思いますというのが結構話題になったと思います。

ただ、前回も出たと思うんですけども、守口市って意外とアンケートでは交通の利便性とか、それから買物の利便性がもっとよくなればというような、誰でもよくなればもっとという部分はあるかも分からないですけども、どちらかといえば北河内の中では地下鉄もあり、モノレールもあり、京阪もありで割とアクセスはいいと思っているんですけども、意外と市民の方からするとよくないのかなというふうに感じられるようなアンケ

ート結果が出たので、少し生活の部分に、子育ての部分を中心にしつつ、ここからいろんな細かい事業が落ちていくんだと思うんですけど。少し生活に関わる部分、商店街であったり、それから住まいの問題というのは結構大きいと思うんですよ。特に子育て世代が、結局賃貸で入ってきて子どもさんがある程度大きくなってきて自分の住宅を構えようとなったときに、守口は少し市内に近い分だけ高い。なので、少し離れた寝屋川とか枚方とか不動産の総額の安いところに出ていってしまうという部分があるので、少しそういうところも見つつ、引き止めていくための何か施策というのがもう少し見えるようになれば伝わりやすいのかなと思いましたので、よろしくお願いします。

○委員長　　どうもありがとうございました。

ほかに何か御意見ございますか。交通の便とかいう話も出ましたけど。

○委員　　総合戦略、目を通していただいて、非常によく課題認識ができていて、第2期からの継続という部分も大いにあるかと思えますけれども、基本的にはよくまとまっている資料だなというふうに感じました。

ただ、個別のK P Iの数字とかを伺っていると、本当に実現可能なのかなという部分も見受けられましたので、その辺りについては今後、しっかりとディスカッションしていきたいなと思っております。

○委員長　　ありがとうございます。

○委員　　拝見しまして、よく盛り込まれていらっしゃるって、フォーカスの当て方も先ほど委員がおっしゃったように、総花的でないところが私もいいのかなと思っていますので、あとはどれくらいに設定するかということ。

やっぱりこれまでやってきたことで、実際はあまり出生率とか人口もやってきたけど増えていないので、多分これまでやってきたことをこのままやっても増えないので、これまでやっていないことをやらないと、多分人口って増えてこないのかなと。それが何かというのは、多分このアンケートの守口市外のところに住みたいという、これ16ページに書いていますけ

ども、「まちが清潔でない」「まちのイメージがよくない」「自然が少ない」というところが結構3割ぐらい占めていらっしゃるということなので、ここを払拭する手だてを盛り込まれると、当然財政、市でできる部分っていうのは税収とかそういう財政を見ながらだとは思いますが、そこも活用しながら、民間の守口市に住んでいる人で守口市が好きな人とか、守口市で会社を構えている人とかにも、こういう協力をしてくださいというのを促すような施策というのがあると、守口市役所さんだけでなく守口市全体で守口市というものをよくしていくんだよというふうな感じになってくるんじゃないのかなと思います。市だけでやるっていうわけじゃなくて、市はこれだけやりますので、居住者の方、民間の方ももっと魅力を高めるためにこういうことをやってくださいとかというふうな声かけとか、そういうのもあってもいいのかなというふうに思います。

○委員長     どうもありがとうございます。

○委員     皆さんおっしゃっているように、子育てのファミリーをというところ、若い人はしっかり守口市に転入が多いということなので、その後、子どもが生まれて定住してもらうため、あと、その経験を踏まえて後でまた戻ってきてもらうというつながりになっているので、そこは非常にいいのかなと思います。

ただ、一方で、定住をさせるというところで、ここは0から9歳になっていますけれども、そこを高めたときに、また今度、中学、高校というふうに進んでいくので、教育面でここがいいよねとなったときに、0から9歳、小学生のところを高めても、もしかしたらほかの市のほうが充実しているとなったときにそこに流れていくというのはどうしても仕方がない面もあるので。要は、そこまでカバーするのか、ある程度今は若者の層、単身の世帯が入っていて、そこをさらに小学生の高学年ぐらいまでは広げていきましょう。取りあえずそこまでやっていく。そこがそれ以降出ていくのは仕方がないと割り切るのかとか、あまり広げ過ぎると全部をやるといのは財政的にも難しいですし、人の面とかも含めて難しいかと思うので、

取りあえずは今の段階、こういう取組でいいのかなとは私自身は思いました。

あと、基本目標で「良いイメージをもって守口を誇りに思う子どもを増やし、育てる」と書いてあるんですけども、私は「良いイメージ」というよりは、この下にも書いてもらっている「たくさんの思い出ができた」とか、「友達や将来の夢と出会えた」とか、そういう経験をしてもらうということが大事なのかなと思うので、イメージというと漠然とした感じで、自分が経験していなくても、治安悪そうだよみたいなの。ただ、実際に住んでみると、そんなことないよねということなので。私はイメージというところをあまり表に出し過ぎると、誤った方向にいくのかなというふうに感じています。

○委員長　　どうもありがとうございます。

○委員　　私も皆さんのおっしゃっていることと同じような感想を持って読ませていただきました。

1点だけお聞きしたいのですが、基本目標の合計特殊出生率を1.25から1.71に上げるというのは、かなり高い目標を掲げられていると思います。つきましては、1点お聞きしたのは、これぐらいの高い目標を掲げないと14万人が達成できないからそうされたのか、もしくは、こういう施策をするから大きく伸びるんだというものがおありなのか、少しお聞かせ願えればと思いました。

○委員長　　事務局から何かございますか。

○事務局　　委員がおっしゃっていただいた部分の合計特殊出生率、こちらについては、確かに高い目標には設定しております。実際、近年では前回の資料でも御提示したと思うんですけども、出生率が下がってきているというような状況が数年ございます。

ただ、今おっしゃっていただいたように、当初の目標設定を掲げて人口減少をできるだけ食い止めるという人口目標のベースがこの出生率を設定した形になっていますので、もちろん目標達成が難しいのは承知の上で、

我々としては可能な限りまちづくりの目標に沿って、ここを目指して取り組んでいきたいと考えております。

その中では、いろんな施策をするにあたって当然財源の事情もございますので、可能な限りいろいろな検討をしながらそこに向かって子育て世代の定住を伸ばすというところを目指して引き続きやっていきたいと考えております。

○委員長     ありがとうございます。

○委員     資料、本当にきれいで読みやすくてよく作っておられるというのは、各委員の皆様方と同じなんですけれども、施策の中で若い世代が住み続けたいまちにするというような中で、ここに住み続けたいと思うためには、その方たちが自分が中年になって高年齢になって、そのときにどうなるんだろうというイメージができる必要があると思います。中高年層のロールモデルが守口市にしっかりあるのかというところは非常に気になります。

計画を見ても、子どもさんが小学校に入るぐらいまでで計画が終わっている。その人たちは、計画が終わったときにここでどうやって生活していくんだろう。商店街もがらがらで、周辺にそしたら自分たちが目指すようなこんな人になりたいという上の層がいてるのかというところが見せられてないのではないかと思います。

それと関連して、デジタルトランスフォーメーションですけれども、前回も申し上げたように、デジタル化も考えてうまくやらないと、どんどん人を孤立化させてしまいます。イベントで寄せるだけじゃなくて、やっぱり公共機関って一定人が集まるような仕組みにしていかないと、人と人との出会いもなくなるし、交流もなくなる。先ほど申し上げた、ロールモデルを見せられないと思うので、もうちょっと環境のいいところに出ていこうかなみたいなところにつながっていくと思うんです。

今、ハローワーク門真で一種の社会実験をしまして、入り口の一番目立つところに透明のブースを設けて、そこにチャイルドスペースといっ

てお子様がおもちゃとかぬいぐるみを置いて遊んでもらえるスペースを設けていますが、それを作るときに、正直反対もあったんです。よそのハローワークは全部奥のほうのなるべく目立たないところに作っているんですけど、それを前面に持ってきて子どもさんたちが遊ぶ姿で苦情が出ないのか、公園と一緒にですね。そんな目立つところに持ってきて、騒いで苦情が出ないのか、安全はどうなるんだ。かなり反対はあったんですけども、実際作ってみた現状で申し上げますと、当然ママと子どもさんもすごい遊んでおり、お父さんが子どもさんを連れてくるようになりました。その次には、おじいさん、おばあさんが自分の仕事探しのついでにお孫さんを連れてきて遊ばせて、御自身はその間に仕事探しをするというようなところも見られるようになりました。

ハローワークっていろんな年代の方が集まるので、例えば若い独身の女性の方、男性の方がそれを見たら、「自分もこういう感じでいつか仕事探しできるかもしれない」あるいは、男性も「自分が子育てこうやってしながら子どもと遊ぶときもあるんだな」という身近なロールモデルがしっかり共有できるというところを社会実験として今進めています。それでどれだけ人が増えるのか、どれだけ就職率が増えるのか。

やっぱりまち全体でもそういう社会実験的要素というか、交流を意図的に増やすというところは必要ではないかというふうに思いますし。今後、そういう計画を立てられるのであれば、そういった要素もぜひ。

特にお金をかけるとか変わったことをしなくても、日頃の接点を増やすという工夫を、この守口庁舎すごいこれだけきれいで立派な庁舎があるので、この庁舎を使って何をデジタルにして、何をリアルにとか。例えば児童扶養手当の申請も全部デジタルにしようと思ったらできるかもしれませんが、1年に1回の現状届のときに、そのときに子どもさん向けのイベントを庁舎内でやるとか、いろんな考えた方があると思うんですけど、そういう視点もぜひ。

今の計画もすごくいいんですけども、それをさらに加えていただけた

ら、また深みがあるかなというふうには思います。以上です。

○委員長     ありがとうございます。

○事務局     今の御意見について御回答いたします。

まず、この子育て世代に限らず地域性という部分に関しては、そこは我々も課題観を持っております。子育ての主体はもちろん子育てしている親御さんですけれども、もちろん地域の方、おじいちゃん、おばあちゃんも含めた形の子育てというのはもちろん全体で考えていく必要があると考えております。

その部分から、まず地域も一体となってという部分については、今回の資料の例えば26ページの取組の体系のところの基本目標3のところの赤字部分で加えていますけれども、もちろん子育ての悩みだったりとかいろいろな部分というのは子育て世帯の親御さんだけの問題じゃないという点も取り入れながら、地域とのつながりを支援していくという観点からも、ちょっと新しいエッセンスを加えています。

委員がおっしゃったように、まさにその部分は、当然子育てについても、その悩みが当事者だけになってしまって結果的には頼るところが御自身のお母さんとかになってくると、親元に近いところに移住する為、守口市の外に出ていってしまうことにもつながる可能性も当然あります。そこはいかに長く住み続けてもらうかを考えたときに、子育て世代だけではなく、地域で一体的になって取り組んでいくという施策も検討が必要かと考えています。

26ページの基本目標2のところに、今回項目を加え、第2期が若い世代に対する魅力発信という形でフォーカスしていたんですが、そこをあくまでも若い世代を含む多くの方というふうな表現を加えているところに意味があります。この計画自体が基本理念にあるように、「子どもといきいき暮らせるまち」というのをベースにしていますので、基本はそこなんですけれども、高齢者の方も含めてまちづくりをしていくためには対象世代を広く捉える必要があるという観点から、こういうフレーズを入れてもっと

守口のよさをアピールしていったら、住み続けてもらおうという観点で進めているところであります。そういうエッセンスを加えながら、委員がおっしゃったように、あくまでいろいろなイベントを通じて、いろいろなものを絡ませながらそういう部分を発信し、施策展開につなげていきたいと考えております。

○委員長     ありがとうございます。

それでは、実際に守口で生活されています市民委員の方のお考えも。

○委員     御説明ありがとうございました。基本目標2と3のところで、数値目標が0から9歳というのがちょっと絶妙なタイミングだなと思いました。やっぱり御両親の方が居住地を考えるタイミングって、小学校入学のタイミングとかで、子どもが一人で通学しても危ないかだとか、もし高校とかに進学で若干電車とかを使うのであれば、電車の駅までの距離とかそういうのを考えてまず居住地を選ぶんじゃないかなと思います。0から6歳とか、もしくは、その次中学校のタイミングの12歳、15歳みたいなところが境目になるんじゃないかなというのは思っていたところです。

あと、若い世代に着目されていると思うんですけども、子どもが独立して大学を卒業したり、社会人になっていなくなったときも、定住してもらえるように考えたほうがいいんじゃないかなと思っています。子育てが終わって次の自分たちのライフプランを考えたときに、もうちょっと便利なのところがいいとか、もうちょっと自然が多いところがいいというふうに転出してしまうと、次、そのお子さんたちが実際に結婚したり、出産したりするときって、やはり身内が近くにいたほうが安心するんじゃないかなと思っています。であれば、そのまま若い世代ではなくて、その人たちが子育てを終えたタイミングでもそのまま定住して、お子さんたちが巣立った後ももう一回帰ってくる故郷みたいな位置づけになれるような感じで考えられたほうが、もしかしたらいいのかなというふうに思いました。

○委員長     どうもありがとうございます。

○委員     結婚をしたいというふうに書いてあるんですけど、私の周りも

今結婚を選択しない女性も増えていて、子どもだけを持つという人も多か  
ったりするので、女性だけの家庭とか、男性だけの家庭にもサービスが  
いろいろ使えたらいいなというのがあります。

私自身、働く中で保育園に通わせているんですけど、やっぱり転職活動  
をするにあたって、私一人で行くわけにはいかない。子どももいるとな  
ると、やっぱり活動できる幅も狭まるし、ハローワークさんでやってくれ  
たらありがたいなというのがあります。

保育園も時間が限られているので働く時間が限られていて、私は働くの  
が好きなんですけど、保育園に迎えに行かないといけない、迎えに来ない  
と先生たちに「お母さん、5時までには来てくださいね。」と言われると、  
それまでの交通のことを考えて仕事を探さないといけない。そうすると、  
自分のキャリアのステップアップができない、じゃあ、2人目、3人目と  
いうのは考えにくいかなというのがあります。

4月の入園の競争率が高過ぎて、そこを逃すと入れない。だから、うち  
の子たちは12月生まれなんですけど、そうすると働きたいと思ったタイミ  
ング、6か月から預けられたら6か月では入れなくなる。でも、1歳まで  
待っていたら入れない。小規模に入れたら、2号、3号が無理になるとい  
うふうになると、また働ける時間も制限されるなというのがあります。

だから、市の政策と市にある保育園の政策が合わさってくれれば働きや  
すいし、シングルの人たちも働きやすい環境になるのかなと思いました。

○委員長　　これまで少しずつ守口市もよくなっているように思うんです  
けれども。その辺りの感覚としてはいかがですか。

○委員　　まち全体はすごくよくて、子どもに体験させたいと思うのが一  
番なので、まちの行事とかにも積極的に参加させようと思っていても、そ  
の存在自体を知らなかったのも、ずっと家の中じゃないけど家族で出かけ  
るのが多かった。最近は駅前とかでもいろんなイベントをやっていたり、  
商店街の中でもやっているの、行けば気づくんですけどなかなかそれを  
告知している場面が少な過ぎて気づいていないこともあるので、それもも

うちちょっと大々的に告知してくれたら行きやすいかなとは思いますが。

○委員長     ありがとうございます。

○委員     御説明ありがとうございます。前回までの会議とかで市当局の方がおっしゃっていたと思いますけれども、守口市のこういう施策がやりたいといったときの課題って、やっぱり住宅価格みたいな話が前回も出ていたと思います。マンション1戸、1部屋買うのに5,000万円とかそういうレベルの話で、基本的には守口市に人を集めてきて定住してもらいたいと、持家も買ってもらいたいというのであれば、やはり住宅政策みたいなところが不可避にはなってくるのかなとは思いますが。それも、コストと土地面との兼ね合いで難しいというふうにはイメージとして思っています。それに縛ってやるという形になると、こういうふうになるのかなというイメージです。

やっぱり不動産価格、この資料の中にもありましたけど、大阪市から守口市に出て行って、さらに寝屋川市にどんどん郊外のほうに、地価も当然安くなっていくし、地価が安くなるということは当然自然環境も多いから、そういうふうに人口移動がシフトしていくというのは、ある程度自然的なところでもあるのかなというふうに思いました。

その部分を縛ってやるとすれば、やっぱり入ってきた人をどうやってここにとどめるかという、むしろ転出防止みたいな話になってきて、そこら辺は委員の先生もおっしゃっていましたが、地縁的なネットワークというか、そういうものをつくって守口市がいいんだよという人間関係みたいなものを醸成させるみたいな。そこら辺はこういったまちづくりの施策とかでは意味があるんじゃないかなというふうには思いました。

ただ、やっぱり住宅の問題が解決されないと、やはりどうやって食い止めるかという根本的な課題みたいなのはどうしても解決できないんじゃないのかなというふうな所感を抱いています。以上です。

○委員長     ありがとうございます。

○副委員長   私もこれまでのことを継続でやっていくということはその

とおりかなと思っています。

1点、ここは行政の仕事かと言われたらよく分からない部分でもありますし、また守口市の方に向かって申し上げるのもちょっと何か心ひけるところもあるんですが、うちの大学4年生とかですと、飲食店とかでアルバイトをしていることが多くて、いろんなチェーン店といいますか店舗があって、守口市さんの店舗にヘルプとかで行くと、結構お客さんのマナーが悪いとか、あまり行きたくないとか、そういうようなことが結構あると聞いています。

要は、そういうファミリー層の方が最初ぱっと入ってこられて、しばらく御飯を食べに行ったりして暮らされている中で、ちょっと怖いみたいなことを思われるようなことがあると、小学校に上がるタイミングなり、中学校に上がるタイミングなりで、もし子どもをこのまま育てるとすればと考えられた時、一つは転出ということもあるのかなと思いました。

その大学4年生の子たちは、たまたま守口市に住んでいるんですけど、大阪市で仕事をするというので、「そのままそこに住み続けたらいいやん。」と言うと、「いや、ちょっと僕は変わりますね。」と言って、恐らくこの3月に転居するグループの中に入ると思うんですけど。そういったこともあるので、例えば35ページの「良いイメージをもって・・・」のところで、もうちょっとマナーアップという大変ですけども、マナー向上に関するようなニュアンスのことをもうちょっと強めに書かれてもいいのかなと思いました。

それが行政の仕事かと言われると、ちょっとそこは分からないところですが、その辺のところは体験としてそういうのが積み重なっていくと出ていこうかなということにつながっていくのかもしれないというのを感じたというところですよ。以上になります。

○委員長      なかなか簡単な解決策がない問題だとは思いますが、ありがとうございます。

ほかに、先生方から何か言い残したような御意見ございますか。

この中にも書いているイメージとかそういうのは、なかなか行政が何かをやるとかいうのとまた違うんでしょうけれども、やはりいろいろな多方面に働きかけていただいていい形にする必要はあるかと思います。

先ほど、途中でも市民の方からも御意見があったように、乳幼児の教育からさらに小学校、中学校、高校、そういう教育を充実させる形で、これは府も関係するでしょうし、私立の学校も今どんどん増えていますので、そういうところともうまく、教育委員会も自分たちが担当しているところだけじゃなくて、コンタクトを取りながら全体としていい形に展開していただけたらと思います。頑張ってください。

それでは、今日は議題が1つでございましたけれども、その他は何かございますか。特にありませんか。

○事務局　それでは、その他として、次回の創生委員会について御説明させていただきます。

次の第3回創生委員会は、先日、日程調整させていただきましたとおり、11月18日（火）の15時から開催いたします。第3回の会議につきましては、資料が確定次第、送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○委員長　皆さん、お忙しいと思いますが、次回もぜひよろしくお願いいたします。

それでは、本日はこれで閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

◇ 午前11時00分 閉会

~~~~~